

公益社団法人 日本地下水学会
2025 年度 第 8 回 理事会議事録

1. 開催日時：2026年2月14日(土)13:30-16:45

2. 開催場所：京橋区民館 3 号室、Web 会議

3. 理事総数：15人

4. 出席理事数：11人

○：出席、×：欠席

理事	遠藤 崇浩	×	理事	久保田 富次郎	×
理事	阪田 義隆	○	理事	杉田 文	○
理事	瀬尾 昭治	○	理事	高木 一成	○
理事	竹内 真司	○	理事	辻村 真貴	○*
理事	中川 啓	○*	理事	西田 憲司	○
理事	増岡 健太郎	○	理事	宮越 昭暢	○*
理事	山中 勝	○	理事	吉岡 真弓	×
理事	吉田 広人	×			

*Web にて出席

5. 出席監事数：2人

○：出席、×：欠席

監事	高坂 信章	○	監事	五藤 幸晴	○*
----	-------	---	----	-------	----

*Web にて出席

6. 議長の氏名：会長 杉田 文

代表理事 杉田 文は、上記のとおり定足数にたる理事の出席があったので、13 時 30 分本理事会の開会を宣した。

7. 代表理事の活動状況

- ・ 2025年12月26日(金)
地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会（第26期・第10回）
地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会（第26期・第4回）
地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第26期・第7回）
地球惑星科学委員会地球惑星科学社会貢献分科会（第26期・第7回）
地球惑星科学委員会地球惑星科学次世代育成分科会（第26期・第8回）
合同会議（出席） 出席
- ・ 2026年1月26日(月) 2025年度 第2回 地球・資源分野JABEE委員会(Web会議) 出席

8. 決議事項に特別の利害関係を有する理事の氏名：該当する理事はいない。

9. 議事録作成者：理事 増岡 健太郎

10. 理事会資料

- ・ 資料 1 : 2025 年度第 8 回理事会議事次第
- ・ 資料 2 : 2025 年度第 7 回理事会議事録
- ・ 資料 a (8 種) : 審議資料
- ・ 資料 b (5 種) : 協議資料
- ・ 資料 c (9 種) : 報告資料

【審議事項】

第1号議案：2027年秋季講演会における宮古島市との共催について

(行事委員会：資料 a 審議_04(行))

- ・2027年秋季講演会における宮古島市との共催に向け、宮古島市長へ会長名で提出する共催申請書案が提示され、承認された。
- ・宮古島市と共催になることで、会場予約が行いやすくなるなど運営上のメリットが多く見込まれる（デメリットは無し）。

第2号議案：台湾地下水資源・水文地質学会 MOU 締結（渉外委員会：資料 a 審議_05(渉)）

- ・台湾地下水資源・水文地質学会（TSGRH）とのMOU(Memorandum of Understanding)締結文案（会長署名）が提出され、承認された。
- ・2026年5月開催のJpGUにおいて、両学会長によるMOU署名式を行う予定。

第3号議案：2026年度予算案（会計委員会：資料 a 審議_11(会)-1a, 1b)

- ・2026年度の二次予算案（収支ゼロ）が提示され、承認された。

第4号議案：2026年度事業計画書案（総務委員会：資料 a 審議_13(総)-2a, 2b)

- ・2026年度の事業計画書案が提示された。監事より、論文投稿料概算システムの新設（編集委員会）に関する記述が無いとの指摘があった。理事会の場で論文投稿料概算システムの新設に関する内容を追記修正し、2026年度の事業計画書として承認された。

第5号議案：入会の承認（総務委員会：資料 a 審議_13(総)-1a, 1b)

- ・正会員6名についての入会が承認された。
- ・会員の動向調査の一環として、入会承認後の新規会員に対して、入会契機の任意アンケートを別途行うことを検討する（総務担当）。

【協議事項】

①各種協議（会計委員会：資料 b 協議_11(会)）

- ・各理事に対して、2026年度決算が確定次第、速やかに会計委員会まで決算報告を行うよう依頼された。
- ・2025年度監査の日程調整についての依頼が総務委員長に対して行われた。

②2026年度表彰候補（表彰委員会：資料 b 協議_12(表)）

- ・2026年度表彰候補（名誉会員、永年会員功労賞）のリストが提示された。
- ・4月理事会で審議（名誉会員・永年会員功労賞）・決議（永年会員功労賞のみ）、名誉会員については5月の代議員総会で審議・決議する予定が伝えられた。

③休会制度について（総務委員会：資料 b 協議_13(総)-1)

- ・他学会の休会制度状況と同制度に対する総務委員会での検討内容が報告された。
- ・同制度を必要としている会員に対して整備することは重要であり、会員にとって有益であるなどの意見が出た。一方で、会員数が減少する可能性や管理上の負荷増大などを懸念する意見も出た。したがって、まずは出産・育児に限定した形で同制度を検討していく方針となった。

④出版倫理規程違反について（総務委員会：資料 b 協議_13(総)-2)

- ・出版倫理規程に関する疑義が生じたため、副会長および監事によるワーキンググループが設置され、事実関係の確認および規程に基づく検討が行われた。その結果、当該者を厳重注意とすることが相当との結論に至ったことが報告された。
- ・再発防止策として、倫理規程の再確認および周知徹底を編集委員会および各委員会に依頼することが確認された。

⑤ドリコ(株)様寄附金使途について（総務委員会：資料 b 協議_13(総)-3)

- ・ドリコ(株)から本学会に対して寄附の申し出があった。特定寄附金Bの地下水学振興基金（若手研究者の研究進化）としての寄附が可能か先方に依頼することとした。

【報告事項】

無任所：（資料c報告_14(無)）

- ・ IAH2029 組織委員会の状況についての報告が行われた。委員会では主に PC0（プロフェッショナルコンベンションオーガナイザー：会議運営サービス会社）の選定と日本開催に関する資料作成が進められているとの報告がされた。また、企業協賛金の集め方についても議論しており、国内企業には数十万円単位のプランなどが検討されているとの報告があった。
- ・ 地下水学会は会計処理を行う必要が無いことを組織委員会に確認したと報告がされた。
- ・ IAH との MOU のようなものが無ければ、地下水学会員が優遇を受けることは難しいとの見解が理事から示された。

企画委員会：（資料c報告_03(企)）

- ・ 理事欠席のため、口頭での報告事項なし（資料のみ）。

行事委員会：（資料c報告_04(行)）

- ・ 今後の講演会の準備状況の報告が行われた。研究集会については、昨年+10件となる137件の発表申し込み状況であることが報告された。
- ・ 監事より、宮古島大会に関して、開催予定時期の宿泊施設状況（開催時期の空室状態や宿泊費など）について調査いただくよう依頼があった。

渉外委員会：（資料なし）

- ・ 報告事項なし（審議事項のみ）。

編集委員会：（資料c報告_06(編)）

- ・ J-STAGE Data利用申請書を提出し、受理されたことが報告された。今後は運用方法について委員会内で検討する予定。
- ・ 二重投稿に関する疑義案件が生じ、当該論文を会長判断により不採択としたことが報告された。今後は同様の案件が起こらないよう、再発防止について委員会内で協議し対応を行っていく予定。

調査・研究委員会：（資料c報告_07(調)）

- ・ 地域地下水情報データベースの更新状況として、委託先にデータを提供済みであることが報告された。
- ・ 現場透水試験法の海外技術に関する出版については次年度に持ち越しとなった。
- ・ 国土数値情報と高度利活用調査・研究グループの活動は、次年度1年間延長となった。
- ・ 令和6年能登半島地震に関する調査・研究グループの活動について、前回理事会後に委員会にて継続の有無を含めて再検討した結果、今年度（R7）の活動をもって終了となった。
- ・ PFASに関する調査・研究グループについては、WG1（挙動・解析WG）とWG2（汚染実態把握・調査・対策（分析を含む））に分けて活動中。

市民コミュニケーション委員会：（資料なし）

- ・ 報告事項なし。

広報・IT委員会：（資料c報告_09(広)）

- ・ ウェブサイトの管理運用と情報発信、ドメインの管理、SNSアカウントの管理運用と情報発信、グループウェアの管理運用、公式SNSアカウント（facebook, instagram）の炎上マニュアルの内容について活動報告がされた。

YEPS委員会：（資料なし）

（総務委員長より代理報告）

- ・ 2026年若手地下水研究助成の応募要領公開を周知したことが報告された。関連して、応募の内容に応じて選考委員を個別に依頼することがあるため、その際の協力が依頼された。
- ・ 2026年春季講演会において、昼休みに若手交流会を開催する予定であることが報告された。

会計委員会：（資料c報告_11(会)）

- ・ 会員数および会費納入状況、収入・支出状況が報告された。
- ・ 2025年7月の会員管理システム変更に伴い、未納会員が今後増加することを懸念している旨が伝えられた。

表彰委員会：（資料c報告_12(表)）

- ・ 計画通りに表彰事業が進められていることが報告された。

総務委員会：（資料c報告_13(総)-1）

- ・ 1 件の後援依頼の報告が行われた。
- ・ 代議員総会の司会について、当日事務局長の都合がつかないため、総務委員長で対応する方針であることが伝えられた。

事務局：（資料なし）

- ・ 沖縄県本部町崎本部行政区から専門家紹介の依頼があり、琉球大学の安元先生を紹介したことが報告された。

監事：（資料なし）

- ・ Web 音声聞き取り難い時があったため、会議の開始前に音声確認するよう指示があった。
- ・ 事業報告では、今年度の事業計画に対して何を実施したか分かりやすく記述するように指示があった。

以上をもって議事を終了したので、議長は 16 時 45 分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、本議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名、押印する。

2026 年 2 月 25 日

公益社団法人日本地下水学会 理事会